

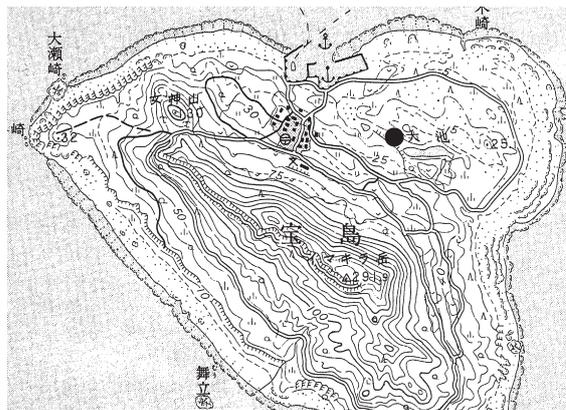
(鹿児島郡十島村宝島)

位置と環境

大池遺跡は、鹿児島郡十島村の宝島に所在する。十島村は、鹿児島市の南方海上に連なるトカラ列島の島々からなる。

トカラ列島は、九州本島南方海上に連なる島嶼群の最北部を占める薩南諸島の一部で、鹿児島港から南へ204kmの口之島を起点に、中之島・諏訪之瀬島・悪石島・小宝島・宝島・横当島（無人島）と南西に連なる島々と、その西側にある臥蛇島（昭和45年から無人島）・平島の島々から構成される、屋久島・種子島と奄美諸島との間に連なる列島である。地質学的には、トカラ列島は琉球弧の内帯に属し、霧島火山帯に属する火山列島である。地史的には、口之島から悪石島までの北部と小宝島・宝島の南部に分けられ、前者は溶岩を主体として険しい地勢を示し、中之島御岳（トカラ列島の最高峰、標高1,030m）や諏訪之瀬島御岳などの今なお活動中の火山を持つ。これに対し後者は火山噴出物の海底堆積層からなり、地形は平坦である。また珊瑚礁も発達している。

宝島は、海岸を幅100mにもおよぶ珊瑚の裾礁が取り巻いており、島の平面形はほぼ三角形をなしている。島の中央部には、北西に位置する円錐形の女神山（標高130m）から中央の最高峰イマキラ岳（標高289m）を経て、南の荒木崎に達する山地が走っている。そしてこの中央山地を取り巻いて山麓部から海岸にかけて数段の海岸段丘（隆起珊瑚礁、琉球石灰岩）が発達している。また、島の北東部には、島の人々が「カクノ」「砂漠」と呼ぶ砂丘がある。大きさは、長さ1km、幅数百mに及ぶ。珊瑚礁（石灰岩）台地と海岸との間に発達したこの砂丘は、琉球石灰岩の風化によってできた砂から成り、新規砂丘と呼ばれているものに相当する。砂丘のほぼ中央には標高30mに及ぶ尾根状の起伏が形成されており、その南端は、隆起珊瑚礁によって形成された段丘の下縁に達している。大池遺跡は段丘下縁と砂丘の間に形成された大池・小池の低湿地のほとりにあり、



第1図 大池遺跡の位置

砂丘の南斜面上に位置する。調査地点は、砂丘表面の風蝕が著しく進んでおり、おびただしい遺物が散乱していた。

調査の経緯

大池遺跡は、1964年民俗調査のため宝島を訪れた牛島盛光によって試掘が行われ、その重要性が指摘されていた。1970年、1972年には佐藤伸二によって多数の土器片や獣骨片が採集されている。そして、大池遺跡の発掘調査は、熊本大学法文学部国分直一教授を団長とする熊日「海上の道」学術調査団によって1973年（昭48）7月21日から31日に行われた。

遺構と遺物

大池遺跡の遺構・遺物を含む堆積層はほとんどの調査区で約2m以上に及んでいる。その中に暗褐色ないし黒褐色の腐食砂層が2～6層確認される。この腐食砂層は10～30cmの厚さがあるが、発掘区の全体に広がるものではなく、断続的である。これら腐食堆積層は先史人の活動を示す生活層と考えられ、出土土器の特徴から大池上層と大池下層に大別されている。

遺構は、地炉（アースオーブン）及び集石（ストーンボイリング）が2基発見されている。これらの遺構は上層か下層かは判明していない。

出土した遺物には、土器・石器・貝製品などの人工遺物と、貝・獣骨・魚骨・そのほかの自然遺物がある。土器は161点発見され、その特徴からI類からIV類に分類された。I・II類は大池下層出土で、九州の轟系土器の範疇に属するものである。III類はすべて大池上層の出土であり、その特徴は奄美群島

の赤連系土器もしくは沖縄諸島の室川下層式土器に類似する。IV類は、キャリッパー形の口縁をもつ深鉢で、表裏に強い貝殻条痕を持つ薄手の土器である。このIV類土器は、特徴や層位から、I・II類土器に後続する土器であり、III類と並行もしくはやや先行するものと位置付けているが、今のところほかに類例をみない。

石器は少なく、凹石や石皿のほかに、チャート製の石核・剥片が発見されたのみである。

貝製品には、リュウキュウマスホ製の貝錘、オオツタノハ製の貝輪・タカラガイ製錘飾・イモガイ製小玉などの装身具、道具として使用されたヤコウガイの蓋、ヤコウガイ製貝匙などが発見されている。

食用として利用された貝にはヤコウガイ、タカラガイ、シラミなどがあり、二次的に強い火を受けて変色し割れたものである。貝を除く動物遺体には、ブダイ類を主とする魚類・鳥類・ウミガメ類などの爬虫類・リュウキュウイノシシ・クジラ・イルカなどの哺乳類がある。この中で特にリュウキュウイノシシは、大池下層に多く出土し、先史時代宝島にリュウキュウイノシシが生息していたか、難しい問題が提起された。

特徴

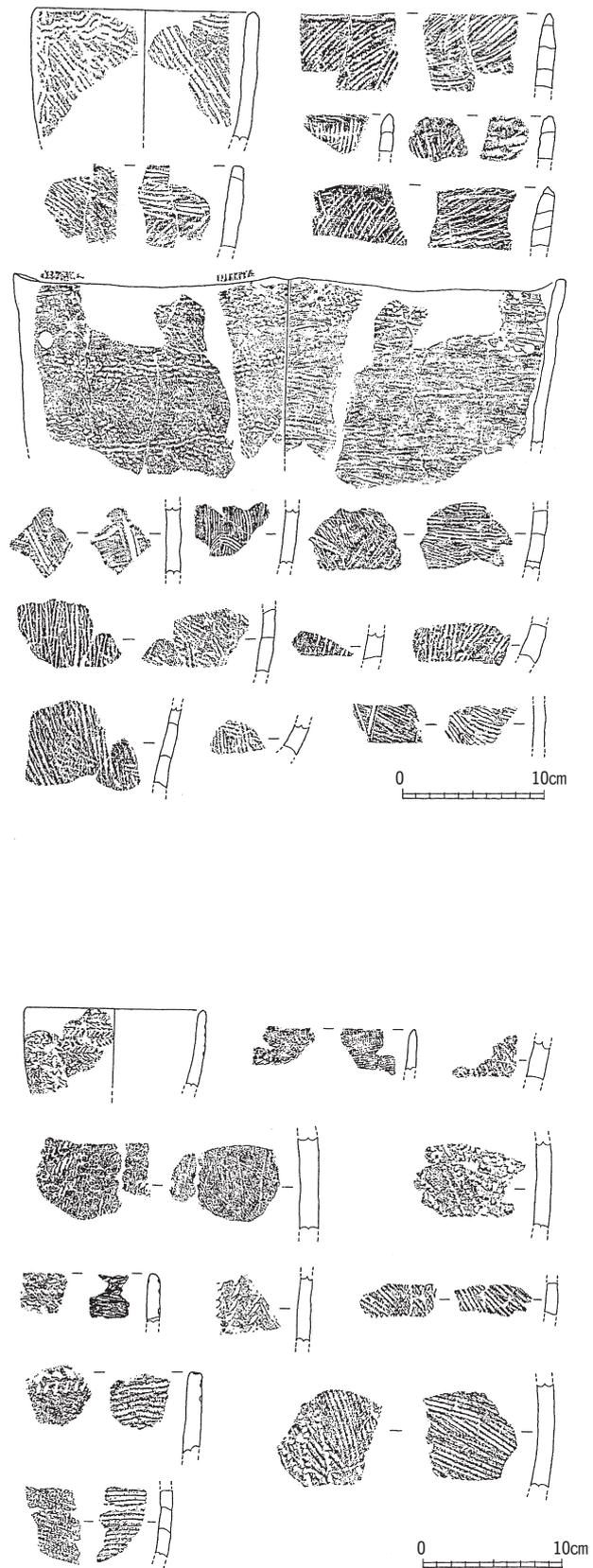
大池遺跡は、文化層の堆積状況から推測すると、縄文時代前期の時期に、居住が短期間に、しかも、砂丘の形成が急速に進んでいる時に数回繰り返し行われたことが想定される。ただし、これらの人々が島の内部で移動を繰り返したのか、ほかの島々から渡来して別の島へ去ったのか、今後の島内や周辺の考古学的調査によって解明される。

資料の所在

出土遺物は、十島村郷土資料館に保管・展示されている。

参考文献

十島村教育委員会1994「トカラ列島の考古学的調査」『十島村埋蔵文化財発掘調査報告書』第1集
(新東晃一)



第2図 大池遺跡出土の縄文時代前期土器